

令和5年度総社市立新本小学校学校評価資料(12月最終)

(A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない)

新本小学校

様式【学校評価資料】

学校経営目標	具体的計画	令和5年度の達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		学校関係者評価	
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策
【確かな学力】 ○学習意欲や思考力・表現力・読解力を高める。 ○基礎学力の定着を図る。	○一単位時間に5分、1日30分の協同学習を効果的に取り入れ、自分の考えをしっかりと語れる授業を行う。 ○自分の考えをもつ時間、書く時間、友達と交流する時間を設けて、自分の考えに自信をもった上で発表できるようにし、思考力・表現力の向上を図る。 ○テーマや字数を決めた日記や作文を書く指導を行う。また、授業の振り返りで視点を決めた内容を書く。 ○実物投影機やデジタルコンテンツ、一人一台パソコンなど、ICTを活用した授業を積極的・効果的に行う。 ○自主学習については、友達の自主学習ノートを掲示したり、学年だよりに掲載したりして、友達の取組を参考にできるような環境を作る。 ○朝学習や授業の時間に全学年で統一した形式の漢字と算数の単元別たしかめテストを実施する。(100点になるまで再テストをくり返す。 <b>学年の実態に応じて、ドリルパークやタブレットドリル等に実施形態を変えることも可。</b> )	○「1日30分の協同学習を取り入れて、グループやクラスで発表する児童をふやすことができた」と回答した教職員が80%以上いる。(職員アンケートⅠ-1) ○「自分の考えをクラスやグループに <b>伝えている</b> 」と自己評価する児童の割合が80%以上いる。(児童アンケートⅠ-2) ○「自分の考えを <b>言葉で書く</b> ことができた」と自己評価する児童の割合が80%以上いる。(児童アンケートⅠ-3) ○「パソコンやプロジェクターを使った学習は、分かりやすい」と自己評価する児童の割合が90%以上いる。(児童アンケートⅠ-4) ○「自主学習にがんばって取り組んでいる(3年生以上)」と自己評価する児童の割合が90%以上いる。(児童アンケートⅢ-2) ○漢字と算数の単元別たしかめテストの合格率90% 1年 漢字100% 算数100% 2年漢字86% 算数93% 3年漢字56% 算数44% 4年 漢字 85% 算数 62% 5年漢字63% 算数63% 6年漢字100% 算数100%	職100% 児87% 児91% 児97% 児86%	B	○宿題で不足している学習時間を自主学習で補うように指導する。そうすることで、がんばって自主学習に取り組んでいると感じることができると児童が増えたと考えている。また、苦手の克服や必要な力の向上のためであれば、パソコンの活用も認めていく。 ○自主学習に関する項目以外は、今の取り組みを継続していく。	職88% 児90% 児90% 児97% 児86%	B	○自主学習への取り組み方に工夫(交換ノート等)を取り入れたり、必ず「めあて」や「ふりかえり」を書くように指導したりする。 ○家庭学習の時間の確保を呼びかけることで、自主学習に取り組む意欲に繋がられるようにする。 ・自己評価は適切である。 ・1年生からPCを十分に使えている。PCを扱うスキルやタイピングの能力に差が出ることで、意欲の低下や活動の制限などが起こらないようにしてほしい。 ・読書の推進が図れたかどうかを評価する基準としてのアンケート項目について、「進んで」という曖昧な姿を評価することは難しい。「1日〇分以上読書している」とか「1週間で…」といった、具体的な数値で評価した方が、子どもも評価しやすいのではないかと。 ・「読書」の中に「新聞を読む」ことを含めてはどうか。 ・おすすめの本や貸出頻度の高い本を紹介するコーナーを作り、手に取りやすい配置にしておくか。
【確かな学力】 ○英語に親しみ、楽しく活動できるようにする。	○年間一人一回研究授業を実施する。(外部講師による指導を受ける。) ○朝の英語放送や英語朝礼、季節に応じた絵カードを掲示により、児童が英語に親しむことができるような環境を整える。 ○3・4年生の児童が目的意識をもち楽しみながら学習に取り組めるよう、必然性のある「読むこと」「書くこと」の活動を単元構成の中に取り入れ、言語活動の充実を図っていく。	○「英語の勉強は楽しい」と自己評価する児童の割合が90%以上いる。(児童アンケートⅠ-5) ○ <b>授業内で</b> 英語でコミュニケーションを図ろうとする力(活かす力)がついたと回答した教職員が80%以上いる。(職員アンケートⅠ-2)	児94% 職100%	A	○朝の英語放送をすることが全校に広がっているの、今の取り組みの様子を見て、今後の対策を考える。	児85% 職100%	B	○各学年の目標値を伝える。(例:6年生・アルファベットを写して書けばよい。) ○話せることが楽しいに繋がると考え、「話したい、使ってみよう」と思える場面を設定する。(例:6年生・修学旅行)
【確かな学力】 ○読書の推進を図る。	○「子どもたちの読書量を増やすための提案」を参考に、おすすめの本の紹介を丁寧に行ったり、図書室を必ず利用する日を決めたりする。 ○国語科での読書単元で児童同士が本を紹介しあう活動を重視する。 ○読書週間の取組や読書の記録カードを工夫して、本に親しむ児童を増やす。 ○毎週2冊は本を借りる。金曜日の朝学習を隔週で「読書タイム」にし、週末読書へとつなげていく。 ○読書の質を高め、幅を広げるため、「おすすめの本リスト」を活用する。 ○おすすめの本については、積極的に借りるように声をかけたり、児童が手にとりやすいよう教室内で置く位置を工夫したりする。	○年間で <b>1年:100冊以上</b> 、2(1)~3年:200冊以上、4~6年:6000ページ以上到達する児童の割合が90%以上いる。(読書の記録) <b>1年生に関しては、2段階の目標を設けて読書への意欲付けと向上を図る。</b> 目標達成人数 1年 9名 2年 2名 3年 1名 4年 2名 5年 2名 6年 2名 (7月現在) 1年 10名 2年 4名 3年 1名 4年 4名 5年 4名 6年 2名 (12月現在) 第2目標(8名) ○「進んで読書に取り組んでいる」と自己評価する児童・「読書の記録が定着し、児童は進んで読書をしている」と自己評価する教職員・「読書に取り組ませている」と自己評価する保護者が85%以上いる。(児童Ⅲ-3・職員Ⅰ-4・保護者アンケートⅣ-1)	児74% 職88% 保72%	C	○週末読書の定着を図る。 ○図書室の時間を十分に確保できない学年については、読書タイムに本を借りるなどして、図書室に行く時間の確保を図る。 ○個人懇談や通信で児童の読書のがんばりを保護者に伝えたり、本の紹介をする国語の単元を活用したりする。 ○給食時間に司書の先生が読書をがんばっている児童を放送する。	32% 児82% 職88% 保77%	C	○学年の実態に合わせて、読書の時間を家庭学習の時間に入れるなどして、読書の推進に努める。 ○中間期の改善策を継続する。
【豊かな心】 ○品格教育を推進する。 ○自他のよさを認め合い、学校行事などに主体的に取り組む。	○学校・家庭・地域で月別のめあてに合わせて週目標を決め、実践力の向上を図る。心と体ウィークでは、家庭との連携を図る。 ○生徒指導などあらゆる場面で「ほめて育てる」ことを重点にし、児童の自己肯定感を高める。 ○学校行事で児童の思いや願いを大切にしたい企画にし、児童の自主性を育て、達成感を味わわせる。 ○代表委員会や集会・体育委員会を中心に月1回以上の <b>縦割り班遊びなどの活動の充実を図り、活動の最後に「振り返り」の時間を設け、学年を超えた児童の仲間意識を育てる。</b> ○学級経営において、帰りの会で「良いこと探し」の時間を設け、お互いの良さを認め合える集団作りをする。 ○ <b>学期ごとに班長を集め、掃除の仕方の伝え方や反省会の仕方を指導・確認する。</b> ○ <b>掃除ががんばり週間(年5回)に掃除を頑張っている児童にgood behaviorカードではめる取組によって、継続して意欲を高める。</b> ○ <b>日記が書きやすい期間や場面、テーマなどを決めて書くようにし、日記を書くことへの抵抗感を減らすようにする。</b> ○ <b>児童理解に生かすことができる内容については学級通信で積極的に紹介するようにする。</b>	○心と体ウィークで品格目標の取組ができたことと自己評価する保護者が90%以上いる。(心と体ウィークふりかえりシート) ○「学校が楽しい」と回答する児童・保護者が90%以上いる。(児童アンケートⅡ-1・保護者アンケートⅡ-1) ○「学校行事のめあてをもち、一生懸命ががんばっている」と回答する児童が90%以上いる。(児童アンケートⅡ-2) ○「友達のよいところを見つけることができた」と回答する児童が90%以上いる。(児童アンケートⅡ-3) ○「 <b>むだな話をせず</b> 、時間いっぱい掃除ができている」と自己評価する児童・教職員の割合が80%以上いる。(児童アンケートⅡ-4・職員アンケートⅡ-1) ○「日記指導を通して児童理解や児童の相互理解に役立てた」と答える教職員の割合が100%(職員アンケートⅡ-2) ○「先生から日記が返ってくるのが楽しみですか」と答える児童の割合が90%以上いる。(児童アンケートⅢ-5)	保77% 児91% 保89% 児95% 児94% 児90% 職90% 職86% 児88%	B	○心と体ウィークで、児童のめあて設定が的確でなく、家庭での取組につながっていないと考える。配付時にめあて設定の具体例を示し、家庭での取組につなげたい。 ○児童の個別実態に配慮しながら、「学校が楽しい」と感じることができるよう、活躍の場を保障し、その様子を便りや懇談等で伝えていく。 ○日記指導を継続していき、内容について児童と会話をしたり、励みとなるコメントを返したりするなどの工夫をしていきたい。	保92% 児94% 保92% 児94% 児89% 児85% 職90% 職100% 児86%	B	○心と体ウィークで、めあての具体例を示したことで、評価しやすくなった。保護者も児童の具体的な姿を捉えやすくなったようだ。 ○帰りの会で、1日を振り返る際に、楽しかった活動やがんばったことを思い返すと同時に、友達のよかったことを伝え合う時間を設けるよう意識する。また、友達へ意識を向けていることをほめることで、よいところを見つけようとする態度を身につけるようにする。
【豊かな心】 ○特別支援教育の充実を図る。	○週1回の児童連絡会で、気になる児童について全職員で共通理解を図り、全員で迅速に対応しようという体制づくりをする。 ○ニーズに合った素早い連携を行い、管理職、生徒指導主事、養護教諭、担任等が一つのチームとして課題解決にあたることで、適切な指導につなげる。 ○ <b>教育相談日やあのね週間の充実と児童や保護者とのコミュニケーションを大切に</b> する。(欠席1日目から連絡。3日目は家庭訪問)	○「子どもの話をしっかり聞いている」と自己評価する保護者の割合が80%以上いる。(保護者アンケートⅣ-2) ○特別支援教育に関する研修を年1回以上行う。 ○「児童や保護者とのコミュニケーションを大切にすることができた」と自己評価する職員の割合が80%以上いる。(職員アンケートⅡ-6)	保89% 職83%	A	○必要に応じて職員研修をしたり、指導に役に立つ話題を提供したりすることで、組織を生かした積極的な生徒指導を心掛けていきたい。	保92% 職92%	A	○保護者の安定を図ることが、精神的な余裕を生み、子どもへの対応へとつながると考える。そのため、日頃から子どもの課題を保護者と共有し、一緒に考えていく姿勢を大事にする。

学校経営目標	具体的計画	令和5年度の達成基準	自己評価(中間)		自己評価(最終)		学校関係者評価	
			達成状況	評価	達成状況	評価	自己評価の適切さ	
【健やかで たくましい体】 ○健康の維持 や体力の向上を 図る。	○新体力テストの結果を前年度県平均と比較し、課題のある項目(投力、筋力、瞬 発力)の向上に取り組む。 ○体育の授業では、運動量を確保し、体力アップのための運動を継続して行う。 ○休み時間は外で遊ぶことを奨励する。  ○残さず食べることを原則としながらも、学年の発達段階に応じて、自分で調整す る力も身に付けさせていく。担任が共通して指導する。 ○好き嫌いをせず、嫌いな物や苦手な物に少しでも挑戦して給食を食べることを 勧め、残食ゼロプロジェクトに取り組む。	○2月の時点で、課題のある項目について学年1つ以上は取り組んでいる。  ○「体育の授業で体力づくりに取り組み、進んで運動している」と自己評価する児童 の割合が80%以上いる。(児童アンケートⅡ-5) ○「1日に1回は、しっかり外で運動している」と自己評価する児童の割合が80%以 上いる。(児童アンケートⅡ-6) ○「給食で苦手な物でも、がんばって食べようと努力している」と自己評価する児童 の割合が80%以上いる。(児童アンケートⅡ-7)	児95% 児84% 児89%	A	○各学年の課題のある項目の運 動の例示をする。 ○朝運動がより効果的になるよ うに、計画的に取り組んでいく。	児94% 児90% 児95%	A	○自己評価は適切である。 ・体力の向上を目指す取り 組みとして、チャレンジラン キングにエントリーして取り 組んだことは、子どものモチ ベーションをアップさせるの に有効である。 ・夜型の家庭も多く、各家庭 で生活リズムが違うので、 一律に評価することは難し い。 ・子どもが家庭でPCを扱う 時間が長くなり、就寝時刻 が遅くなったり、寝られなく なったりしているのは心配で ある。
【健やかで たくましい体】 ○基本的生活 習慣の確立・定 着を図る。	○しゃきっとカードを活用して生活習慣チェックを行い、望ましい生活習慣をつ くる。  ○学校保健委員会で <b>基本的な生活習慣に関する講演等を計画</b> し、保護者の健康に 対する意識を高めるようにする。 ○メディアに関するルールについて話し合い、必要であればルールをつくることを 奨励する。	○実態調査(しゃきっとカード)で早寝・早起き・朝ご飯を80%以上の児童が達成す る。  ○「子どもに早寝をさせている」と自己評価する保護者が80%以上いる。(保護者ア ンケートⅣ-3) ○しゃきっとカードで1週間計画したメディアの時間を守れたという児童が70%以上 いる。(児童アンケートⅢ-6)	保89% 児75%	B	○早寝・早起きに課題があり、すべ てに○がつくのが難しい。1日のス ケジュールを立てられるようにする ことで、自己の生活習慣を見直せ られるようにする。 ○学校保健委員会等で、児童や保 護者にメディアに関する話を聞く機 会を設ける。 ○メディアの定義を見直す。	児34% 保75% 児75%	C	○朝ごはんについては達成できている。 ○「早寝・早起き」について時間設定の見直 しをする。 ○早寝・早起き・朝ごはんのそれぞれにつ いて達成度をみることで、課題を明確化する。 ○保護者が子どもの就寝時刻を意識してい るかを評価するようにする。
【開かれた学校】 ○地域の人材・ 学習素材を活用 し、情報発信す る。	○新型コロナウイルス感染症の対策を講じた上で、学校支援ボランティアを進ん で活用する。 ○計画的に地域の人材・学習素材を活用する。 ○学校の教育活動を、各種の便りや学校ホームページ等を充実させて、積極的に 発信する。	○「地域の人材・学習素材を活用した学習指導を実践した。(今後の予定も含む)」と 自己評価する教員が80%以上いる。(教員アンケートⅣ-1)  ○「学校は、各種の便りやホームページ、をとおして、積極的に情報発信をしてい る。」が80%以上になる。(保護者アンケートⅠ-4)	職85% 保94%	A	○義民祭、赤米など地域での行事 をこれからも大切にしてい く。 ○野菜作り、水の学習のように各 学年での学習にも地域の方に協 力をお願いしていきたい。  ○引き続きホームページや便りの 充実を進める。	職100% 保94%	A	○活動ごとに協力していただけるボランティ アの方はたくさんおり、体験を伴う学習がで きている。  ○メール等での情報発信にも取り組んでい く。
【総中ブロック】 「ま」 まず行動	○「褒めて育てる」ことを重視し、学校でちよボラやピア・サポート活動をする児童 を、教職員が積極的に認め、励ます。 ○児童の <b>頑張っている様子を、学校だよりや学年だより、学級懇談、Good Behaviorカード等を通して、積極的に家庭に伝える。</b>	○児童・保護者・職員アンケートの「よい行いを進んでしている(ちよボラやピアサ ポートなど)」が、90%以上になる。	児91% 保79% 職100%	B	○学校ではよい行いをすることが できているが、家庭でのよい行 いが見えにくいようである。学校での よい行いを積極的に家庭へと伝え ていきたい。	児93% 保91% 職100%	A	○たよりや懇談、Good Behaviorカード等で 児童のよい行いを伝える取り組みを続けて きた。その結果、保護者も子どものよい行 いを積極的に見ようとする態度が見られるよ うになった。
【総中ブロック】 「さ」 さわやか あいさつ	○新本小代表委員会や高学年での話し合いをもとに、あいさつを頑張っていた児童 を放送する。 ○地域の方に会ったときには進んであいさつをしたり、お世話になった時にはお礼 の手紙を書いたりする。 ○「まさきプラン」による総社中学校区共通の連携したあいさつ運動の実践を行 う。【総社を愛する子供】【礼儀正しい子供】	○児童・保護者・職員アンケートの「(子どもは)自分から進んであいさつをしている」 が、90%以上になる。	児96% 保83% 職83%	B	○朝のあいさつ運動だけでなく、そ の他の場面でもあいさつができる ような取り組みを新本小代表委員 会を中心に行っていく。 ○声の大きさだけでなく、あいさつ の質を上げる活動を行ってい きたい。	児93% 保86% 職92%	B	○様々な場面で、適切な声の大きさや積極 的な態度などよりよいあいさつをする ことを目標とし、新本小代表委員会によるふりかえ りを継続して行っていく。 ○生徒指導や週番の話で、家庭でも自分 からあいさつをするを促すようにする。
【総中ブロック】 「き」 協力する心	○情報交換会やケース会議での児童の様子をもとに、支援の方法を検討し、組織 的に児童支援や学級づくりに関わる。 ○自分と違うことで排除するのではなく、違いを認めて協力する態度を身に付けら れるように指導する。  ○学級遊びや縦割り班掃除・縦割り班遊びでの振り返りの時間を設けることで、学 年を超えた仲間との活動のよさに気づき、児童の仲間意識を育てる。 【心優しい子供】	○児童・保護者・職員アンケートの「いじめや仲間はすれをしないで、友達と力を合 わせることができる」が90%以上になる。  ○児童・職員アンケートの「他の学年の人と活動することは楽しい(そうじ・縦割り班 遊び)」が80%以上になる。	児94% 保96% 職91%  児90% 職100%	A	○縦割り班での活動を楽しみにし ている児童が多い。学年を超えた 関りができているので、引き続き縦 割り班での取り組みを行っていく。	児94% 保92% 職90%  児94% 職100%	A	○学級遊びや月2回の縦割り班遊びを継続 的に行ってきたことで、楽しい時間を共有す る体験が増えた。また、活動中にトラブルが 起こっても、解決に向けた接し方や声掛けの 仕方を学んでいる。

※下線部・・・「いじめ防止基本方針に基づく取組」に関する項目